



お知らせ

今後のユーザーズミーティングや関連行事、
その他のお知らせです

患者さん用の健康共通 IDカードが新しくなります

この度、患者さんが加入した際にお渡ししている『みやぎ医療福祉健康共通 ID カード』が新しくなります。従来のカードは、少し大きくてお財布に入れづらい、というご意見を頂いておりました。今後はプラスチックカードとなり、クレジットカードと同じ大きさとなります。また、QRコードを裏面に印刷してありますので、MMWINのホームページに繋がります。そこから MMWIN に関する最新の情報をご覧いただけます。

また、従来のカードはそのままご使用になれます。もし新しいカードへの切替をご希望の患者さんがお見えでしたら、患者さんご本人から MMWIN 事務局サポートセンターへご連絡していただくようお願いいたします。サポートセンターの連絡先は、022-399-6880 です。ご迷惑をおかけして申し訳ありませんが、ご対応のほど宜しくお願い申し上げます。

▼新カード（プラスチック製）



▼旧カード（ラミネート仕様）



平成 29 年度 社員総会を宮城県医師会館にて行います



平成 29 年度 社員総会を、7 月 27 日（木）18:30～20:00、宮城県医師会館 2F 大手町ホールにて開催予定です。詳細のお知らせや委任状を送付致しましたので、届きましたら内容のご確認をお願い致します。参加の有無や委任状の返信など、お手数をおかけいたしますが、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。皆さまのご参加をお待ちしております。

貴施設の MMWIN 使用者(担当者)のメールアドレスをご登録ください

以前よりお知らせしておりますが、MMWIN 通信を郵送の他に、各施設の MMWIN 使用者に直接メールで送付しております。また、ユーザーズミーティング開催のお知らせ等も送付致しますので、貴施設の MMWIN 端末使用者の方のメールアドレスを何件でも構いませんので、可能な範囲でお知らせください。『koho@mmwin.or.jp』まで、施設名と可能であれば担当者様名をご記入の上、ご登録をお願い致します。右記の QR コードより、メールを送付いただくことも可能です。



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-8633 仙台市青葉区大手町 1-5 宮城県医師会館 6 階 URL: <http://mmwin.or.jp>
サポートセンター TEL: 022-399-6880 サポートセンター E-mail: support@mmwin.or.jp
事務局 TEL: 022-395-6312 FAX: 022-395-6313 E-mail: office@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

©2017 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



エム エム ウィン
MMWIN® 通信
みんなのみやぎネット® NEWS

2017
July
vol.43
07

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会



Kenji Kakazu

Interview

「MMWINの現状と今後の展開」
嘉数研二理事長に聞く、

危機的な状況から一転、
スタートした当初より
明かりが見えてきたと感じている。

—— MMWINの推進体制について

MMWINは、平成 23 年の東日本大震災をきっかけとして、当時の医療情報の消失などの反省を含め、システムを構築するに至っています。当時の時点では、医療分野において、脳外科や産婦人科、眼科、整形など、各分野でのシステムネットワークが構築されつつありましたが、それらを全てまとめる、という形でスタートしています。

MMWINのシステムは、『災害に強い医療情報ネットワーク』、『多職種の連携（医師に限らず、看護師、薬剤師、ヘルパーなど）』、『いつでもどこでも医療情報を必要とするときに共有できる』という大きな目標があります。

平成 24 年 6 月に、任意団体から一般社団法人になったのをきっかけとして、理事長に就任しました。その際、薬剤師会や看護協会など、多くの団体が参画してスタートしています。スタート当初より、システムのハードを強固なものにするべく、多額の予算をかけて MMWIN のシステムを構築しました。予算をかけた分、立派なシステムが出来上がりましたが、いざ利用を開始するにあたり、利用者の拡充と連携及びシステムのメンテナンスまでのサポートが考えられておらず、危機的な状況に陥ってしまいました。

その対策として、事務局の体制を改革し、事業推進委員会や戦略的な実務者会議を立ち上げ、進めることに致しました。参加施設数は平成 29 年 7 月 7 日時点で、591 施設となり、加入患者数も 36,725 人と増加傾向にあり、やっと上昇気流に乗ってきたところでした。そういった中で、MMWIN は宮城県や総務省から補助をいただいで運営しておりますが、宮城県に対し、費用対効果や、事務的な問題の解決に向けて、参加施設の増加や、会費の徴収といった条件を示し、改めて補助金の計画を立て、新たなスタートに向けて進んで行くこととなりました。東北大学の中山理事のリードや、新任の佐々木事務局長の就任などで、スタートした当初より明かりが見えてきたと感じています。

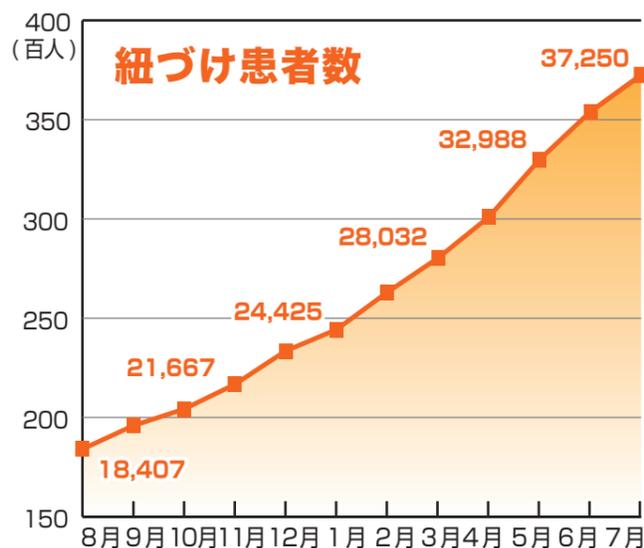
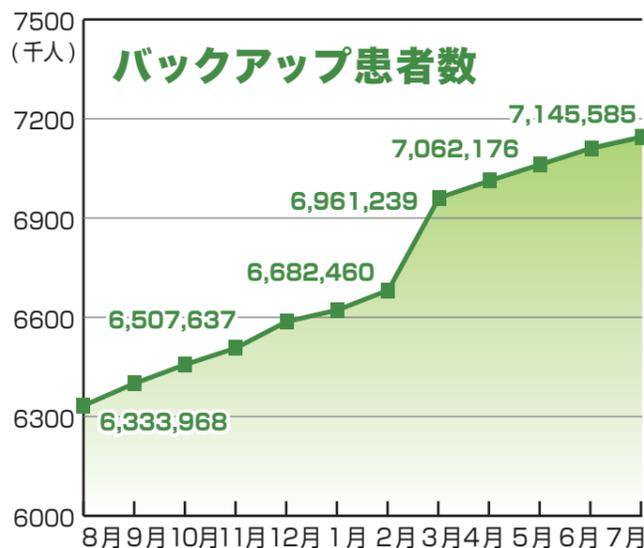


稼働状況

データで見る MMWIN の稼働状況です。

データ推移

バックアップ患者数は前月比+34,288人、紐付け患者数は前月比+1,408人となり、両データ共に、順調な増加傾向にあります。今後ともよろしくお願いたします。



よくあるご質問

Q 患者さんのIDカードに、使用期限はありますか。

A 患者さん用IDカードに有効期限はありません。無期限でご利用いただけます。合わせて、一定期間のご利用がないことを理由に無効になることはありません。なお、システム利用者の認証に用いているICカードには有効期限(10年)があります。

Q PINコードが分からなくなったので、教えてください。

A PINコードは、お知らせすることが出来ません。新しいPINコードを任意の様式に記載して、職員用のICカードと一緒に事務局に郵送して下さい。再設定後、返送いたしますので、大切に保管してください。

Q PINコードをユーザーが任意の番号に変更することは可能ですか。

A PINコードはユーザー側で変更することは出来ません。PINコードを変更する場合は、職員用ICカードを事務局に郵送頂く必要があります。

現在の加入患者数は3万人だが、もっと10倍、100倍を目指して行きたい。

MMWINの今後について

システムの運用も含めて、どういう形でMMWINを進めるか、ということが重要です。参加施設にMMWINは有用だ、と認められるシステムにしないといけない。使いやすく、負担にならない、有用なネットワーク、といったことを目標に、動き続けています。その中でも、心強いのは個別システムの展開です。透析システム、セナードネット(周産期情報対象)や、スマイルネット(脳卒中患者紹介システム)、眼科連携システムなどが具体的に展開してきています。

介護も調剤も、当初から進んできてはいますが、遅れを取っているのが、診療所、クリニックです。参加診療所数が少なく、データが少ないということは、情報をやり取りするにあたって、ネックになる部分です。既に、大学や基幹病院のデータはMMWI

地域包括ケアにおいても、MMWINが大きな役割を担い、果たすことができると思う。

現在、取り組んでいる大きな課題として、画像連携システムがあります。画像情報がないと、医療としてはどうにもならないと考えています。CTやMRIなど、言葉や文字情報以上の情報伝達が、強力であるのは御承知の通りです。

ただ、画像を扱うと簡単に言っても、科や用途によって違うので、必要画像の解像度の調整が難しいと思っています。精密さの相違の点で苦労しながら進めているところだと思います。そういったことを含めて、便利で、意欲の出るシステムになって欲しいと願っています。会費についても、納得できる会費であることが大事だと考えています。もちろん、費用対効果に見合った会費であって欲しいし、オプションシステムの可否などで、プラスアルファがある等、参加施設の皆さまが納得できる形であることを願っています。

最近では、遠隔地医療も視野に入れていかなければと思っています。宮城県内でも、都市部から離れていくと、医師不足や産科の不足なども出てきています。そういった部分で、ネットワークを利用した連携が進んでいくことが必要だと思っています。ネットワークの利用で、診療報酬が算定可能にもなりますし、今後、国も同じ方向に進んでいこうとしているので、MMWINは有効だと思っています。国策と

Nのデータベースの中に沢山入っています。そのため、クリニックの先生は、基幹病院にかかっている患者さんのやり取りを、スムーズに行うことができます。しかし、患者さんが基幹病院から、地域のクリニックに戻された際、参加クリニックが少ないと、情報のやり取りが出来ず、不十分になってしまいます。地域の中で、多くの患者さんがMMWINに加入していれば、紹介をしたり戻したりということが可能となります。しかし、まだそこまで行っていないのが現状です。現在の加入患者数は3万人を越えたところですが、もっと10倍、100倍を目指して行きたいと思っています。中山理事より、今までのやり方を強化するために、アウトソーシングを使って、参加施設の増加に向けて進めると聞いています。患者さんの加入促進も活発に行なっているので、この調子で進んで欲しいと思っています。

して、地域包括ケアシステムも始まっています。システムというよりは、ネットワークで連携が可能となっています。その中で、MMWINが大きな役割を担い、果たすことができると思っています。今後共、より良いネットワークシステムになるよう、一丸となって進んでいきます。



嘉数 研二 (カズ ケンジ)

社団法人 日本整形外科学会認定整形外科専門医、運動器リハビリテーション医、リウマチ医、スポーツ医、麻酔科標榜医 医学博士。一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の発足当初より、当協議会の理事長を務める。医療法人社団 嘉数会理事長、宮城県医師会会長も務める。